

障害者歯科学

[講義] 第5学年 前期 必修 0.7単位

《担当者名》 教授/齊藤 正人 教授/安彦 善裕 教授/越野 寿 教授/照光 真 教授/木下 憲治
 講師/森 真理 講師/吉本 裕代 講師/倉重 圭史
 助教/福田 敦史

【概要】

本科目は、心身障害者の定義、歯科的問題のほか、各論としては各種の心身障害とその特徴、歯科的問題、歯科的対応について学習する。

【学修目標】

- 障害の概念を説明する。
- 障害と歯科医療と関わりを説明する。
- 各種の障害の実態を踏まえた歯科的特徴を説明する。
- 障害者における歯科治療の実際について説明する。
- 障害者における口腔疾患の予防と管理について説明する。
- 障害者における行動調整法について説明する。
- 障害者における外来（日帰り）全身麻酔や精神鎮静法の適応を説明する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	障害者歯科の総論	心身障害者の捉え方、定義について説明できる。(E-5-2)-) 歯科治療時の問題点について説明できる。(E-5-2)-) 心身障害者患者に対する歯科的対応法について説明できる。(E-5-2)-) 障害者歯科における術者側の問題と患者側の問題について説明できる。(E-5-2)-)	齊藤 正人 倉重 圭史 福田 敦史
2	心身障害者の種類と特徴、歯科的対応(各論1) 1.精神発達遅滞 2.自閉症	精神発達遅滞の概要と歯科的特徴について説明できる。(E-4-4)-) 自閉症の概要と特徴について説明できる。(E-4-4)-)	齊藤 正人
3	心身障害者の種類と特徴、歯科的対応(各論2) 3.ダウン症候群 4.てんかん	ダウン症の概要と歯科的特徴について説明できる。(E-5-2)-) てんかん発作の概要と歯科治療時の対応について説明できる。(E-5-2)-)	齊藤 正人
4	心身障害者の種類と特徴、歯科的対応(各論3) 5.脳性麻痺	脳性麻痺の概要と歯科的特徴について説明できる。(E-5-2)-)	齊藤 正人
5	心身障害者の種類と特徴、歯科的対応(各論4) 9.要介護高齢者	要介護高齢者における歯科的特徴 認知症患者における歯科的特徴 義歯装着者における問題点 (F-4-3)高齢者の歯科治療)	越野 寿
6	心身障害者の種類と特徴、歯科的対応(各論5) 10.心的障害	心身症患者における歯科的特徴と対応 (F-4-4) 障害者の歯科治療)	安彦 善裕
7	歯科医療における口腔ケアの位置づけと誤嚥性肺炎との関連	超高齢社会における日本の死亡順位の変化：肺炎の順位 歯科医療における口腔ケア	木下 憲治

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		<p>口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防効果 口腔ケアの実際 プリント配付 この講義は、高齢者歯科、歯科医療福祉論の木下担当の講義と関連する。</p>	
8 9	障害者への歯科的対応 (口腔疾患の予防と管理)	<p>障害者は知的又は身体的なハンディキャップのため、口腔の管理が遅れがちになり、う蝕や歯周疾患にも罹患しやすくなる。 歯科における対応も、ともすれば主訴に対する処理に追われることにもなりかねない。本項では、本講座で30年以上担当している障害者施設の入園者に対する歯科的対応の実例を通して、障害者に対する歯科的対応について理解する。 B3-2)- 、 、 E5-2)- 、</p>	森 真理
10	障害者歯科における全身管理と行動調整	<p>障害者の中で身体障害又は精神発達遅滞・精神障害・認知症・脳性マヒ、そして嘔吐反射が強いと、歯科治療に際し開口及び一定体位を維持できない。患者と患者保護者や関係者が安心・納得する、安全で質の高い愛護的な歯科医療を提供するために、本講義では障害者に対する全身麻酔法や麻酔科診療を学ぶ。行動抑制は吐瀉・窒息をひきおこすこともあり非愛護的であり患者の精神衛生上もよくない。患者の身体障害の程度、逃避行動や号泣の程度を見極めて、麻酔薬剤を用いた行動調整法である全身麻酔法・鎮静法の適応を学ぶ。 (F-1-3)-(4)- 、 F-1-3)-(2)-)</p>	照光 真
11	外来全身麻酔法を適応した障害者歯科における患者管理	<p>障がい者歯科における外来(日帰り)全身麻酔法下の周術期管理を学ぶ。すなわち、適応症の見極め、術前診査・検査、麻酔前投薬などの術前指示、全身麻酔方法(麻酔導入方法・気道及び呼吸管理・麻酔維持方法など)、術後鎮痛、そして麻酔薬の副作用に対する対処方法や注意点を学ぶ。なお、本講義では、障害者歯科患者リスクマネジメントについても考える。 (F-1-3)-(4)- 、 F-1-3)-(1)- 、 F-1-3)-(1)-)</p>	吉本 裕代

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験(100%)

【教科書】

「スタンダード全身管理・歯科麻酔学」学建書院

「歯科麻酔学」第8版(医歯薬出版)

その都度講義プリントを配布する。

【学修の準備】

指定された教科書の当該部分を事前に読んでおくこと。(60分)

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.ここから記載人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を修得する(専門的実践能力)。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につける(プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力)。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を身につける(自己研鑽力)。

DP4.多職種(保健・医療・福祉)と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践する(多職種が連携するチーム医療)。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につける(社会的貢献)。

【実務経験】

齊藤 正人（歯科医師）、越野 寿（歯科医師）、安彦 善裕（歯科医師）、照光 真（歯科医師）、森 真理（歯科医師）、吉本 裕代（歯科医師）、木下 憲治（歯科医師）、倉重 圭史（歯科医師）、福田 敦史

【実務経験を活かした教育内容】

障害者歯科学とは、障害者がおかれている環境を理解し、障害者医療における社会的ニーズを踏まえ、地域社会および国際社会に貢献する科目である。多くの実務経験を背景とした経験談や症例を提示することで、優れた教育効果が期待できる内容となっている。